

平成27年度 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 開催日時：平成27年7月6日（月）14：00～16：20

2 開催場所：和歌山県自治会館 2階203会議室

3 出席者

・委員

川淵 孝一（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授）

坂本 すが（公益社団法人 日本看護協会会長）

瀬戸 嗣郎（静岡県立こども病院院長）

中川 武正（白浜町国民健康保険直営川添診療所所長）

中西 憲司（兵庫医科大学学長）

・和歌山県

幸前福祉保健部長、野尻局長、鳥淵医務課長

・公立大学法人和歌山県立医科大学

岡村理事長（学長）、塩崎副理事長、山上理事（医学部長）吉田理事（病院長）、

志波保健看護学部長、三島助産学専攻科長、川上附属病院副院長兼紀北分院長、

羽野学生部長兼教育研究開発センター長、岡本附属病院副院長兼看護部長、

その他関係課室長

4 議事

（1）業務実績評価の進め方等について

（2）平成26事業年度の法人の業務実績等の検証について

（3）財務諸表等に関する説明

5. 議事要旨

（1）業務実績評価の進め方等について

○事務局から資料2に基づき、今年度のスケジュールを説明。

（2）平成26事業年度の法人の業務実績等の検証について

・法人から資料3-3に基づき、26年度の業務実績評価について説明後、質疑応答を行う。

主な質疑応答・意見については以下のとおり。

■教育・研究について

	委員からの質問	法人の回答
1	留年者数が増加していることへの対応を教えてください。	担任が学生に個別面談を実施している。 学年の途中においても、数回面談を行い進路状況を確認している。
2	進級判定の方法を変更（全ての科目に合格していなければ進級できない）したことにより、どの程	現在、仮進級の学生が各学年に十数人いることを踏まえ、その分が増えると考えられるが、逆に仮進級

	度留年生が増加すると考えているか。	をなくすことで、学生の修学に対する意欲が改善されることを加味するとそれ程増えないのではないかと考えている。
3	授業への出席率と成績との関連性を教えていただきたい。	授業に出席はしているものの、試験にうまく対応できていない学生がいると考えている。 留年生に対する面談の結果、1年時に大学の授業に適合した修学態度が身につけていない傾向がある。 今後予定している1年生のカリキュラムの変更改訂と併せて少人数で勉強するような形に変えていきたいと考えている。
4	医師になるモチベーションを上げるため、アーリーエクスポージャー（入学後早い時期に現場の医療を体験させる。）の制度をとっているか。	1年時の夏休みに病院、年度末に老人福祉施設等での研修を実施している。
5	過去に特定の科目の試験で多くの学生が不合格になったことがあったと聞いているが、現在は是正されているのか。	現在、特定の科目の試験で多くの学生が不合格になるということは解消されている。 試験の難易度の標準化を図っている。
6	医師国家試験合格率で県民医療枠・地域医療枠の合格率が100%となっているが、入学試験の段階で何か工夫をしているのか。	県民医療枠・地域医療枠の推薦入学については、第一次選抜の段階で試験の成績はある程度担保されている。 その後、長時間かけた面接により、学生の修学意欲や地域に対する思いを適正に判断している。
7	貴学では早期体験実習を1年時に老人福祉施設等で行い、3年時に急性期医療の病院で実施しているが、むしろ1年時に急性期医療の病院で実施することは考えていないのか。	本学では1年時にまず医療の現場を見て、その後順次実習を進めていき、高学年になってから疾患を診るという形で実施している。
8	一般枠に多浪生が入学し、その学生が留年となる傾向はないのか	多浪生の中には、一部修学の状況が悪い学生もいるが、現役で入学した学生が入学直後に勉強をしなくなるケースも見受けられる。
9	地域医療枠の学生の入学試験はセンター試験以外に課しているものがあるか。	大学独自に課しているものはない。

委員からの意見	
10	教養については学生が関心を持たない傾向にあるが、何らかの工夫を行うことで教養を身につける体制づくりをしていただきたい。

■附属病院について

	委員からの質問	法人の回答
1	新患外来患者数が減少しているのはなぜか。	新患外来患者数の減少は全国的な傾向であるが、本学では、リニアックの更新に伴い稼働を休止したことも外来患者数が減少した一因と考えている。
2	新しい診療科として形成外科、リウマチ膠原病科が新設されているが、現在教授の公募をしている	教授選考は既に終わり、7月から形成外科を開設する。リウマチ・膠原病科の教授には今年の秋から来て

	のか。	いただくことになっている。
3	特定機能病院としては患者数の増加が見込みにくいなか、単価の上昇によって全体の収益が上がるとい方向にいかざるを得ないと考えるが、貴学にはそういう傾向はあるのか。	当面は、新たに2つの診療科ができるので、さらに有効な病床利用が可能となったり、東棟に増設した手術室を有効的に活用することにより収益を確保できると考えている。
4	業務実績報告書の中にはがん化学療法の充実を図っていると記載されてるが、それに伴って外来診療単価が前年度より上がっていないのは何が原因か。	リニアック更新に伴い稼働を休止したことにより、外来患者数が減少したことが影響していると考えている。
5	リウマチ・膠原病科は分子標的薬をよく使用する科であり、診療単価が上がることも考慮して開設されたのか。	分子標的薬のことは関係なく、和歌山にはリウマチ・膠原病科の中核的な医療機関がなく、医師や患者から開設の要請があったことによるものである。
6	リウマチ・膠原病科の治療のメインは外来を考えているのか。	外来と同時に入院の症例である呼吸器合併症などの重症患者も多いと考えられるので、呼吸器内科の病棟と連携して対応していかなければならないと考えている。
7	病理診断科を標榜したということであるが、病院の中に病理診断科を作り、それを運営するのが病理学教室ということか。	基礎の教室にあった第一病理学、第二病理学をそれぞれ病理学講座と人体病理学講座に名称変更し、人体病理学講座を臨床学部門に移し、病理診断機能の強化を行った。
8	基礎病理はかつては人気があったが、最近衰退しているので、病理診断という場をつくることによって活性化させようとしているのか。	そのとおりである。 病理診断科の開設による病院の強化と若手医師の確保を目指している。
9	呼吸器内科・腫瘍内科に標榜科名を変更しているが、今後呼吸器系以外のがんに対して展開していくということか。	外来患者には外来化学療法センターにおいて専属医師が対応しているが、当該専属医師を呼吸器内科に配属し、各科で行っているほぼ全てのがん化学療法をガイドランスする体制とした。
10	病床利用率の現状と目標値はあるか。	病床の再編を行い、平成26年度の病床利用率79.4%を、83%程度にしていきたいと考えている。
11	保健看護学部生への附属病院への就職率を上げるため、1年生からを対象とした奨学金制度はあるか。 制度があるのであれば、それにより就職率は増えたか。	奨学金制度はある。 奨学金制度により、附属病院への就職率は増加している。
12	平成25年度、平成26年度の査定減額率が上がっているが、どう考えているか。	最近の傾向としては、高度な手術の点数で請求していたものが査定減額されている。 また、診療報酬請求の担当者の知識不足等により精度が落ちたこともと考えられるため、平成27年度からは診療報酬に詳しい職員2名を増員し改善を図っている。
13	託児施設の料金を見直しているが、教職員も病院職員も同じ料金なのか。	職種による違いはない。
14	地域医療支援センターの学外に向けた活動と、今	指導医講習会の開催や家庭医療専門医後期研修プロ

	<p>後の方向性をお聞かせいただきたい。</p>	<p>グラムの作成等、学外に向けての活動を行っているところである。その他にも医療関係者を対象とした講習会や新規採用の研修医を対象としたヘルスケアプロパイターコースの講習会等も開催している。</p> <p>また、県民医療枠・地域医療枠の一期生が来年度から後期研修に入るが、県と協議を行いながら、その勤務先医療機関を早期に決定するなど卒後9年間の間にキャリアを積むことができるよう考えていく必要があると考えている。</p>
--	--------------------------	---

委員からの意見	
15	<p>診療科の標榜を変更する場合には、患者の目線に立った広報活動を行っていただきたい。</p>
16	<p>保健看護学部生の附属病院への就職率を上げるため、附属病院への就職の推薦をするような制度を作ることにより、学部と附属病院との関係性が強化できると思うので、様々な対策を考えていただきたい。</p>
17	<p>託児施設が男性にも積極的に利用されるようになり、働きやすい職場環境であることをアピールできるようにしていただきたい。</p>

■業務運営の改善について

	委員からの質問	法人の回答
1	<p>インセンティブ制度の導入から半年経過しているが、その状況を聞かせてほしい。</p>	<p>平成27年1月から開始し、診療報酬2万点以上の手術等をインセンティブ制度の対象としている。</p> <p>この制度の導入による収益への影響については、今後検証が必要である。</p>
2	<p>医療技術職員19名増員したことにより、施設基準を新たに取得したのか、あるいは増員することにより医療の質を向上したということなのか。</p>	<p>技術職員を増員することで、医師・看護師あるいは患者に対する効率化や機能評価係数Iの改善も狙っている。</p> <p>今後も、病院の機能の向上、質の向上を図っていきたい。</p>

(3) 財務諸表等に関する説明

- ・資料4-1～4-5に基づき、法人から説明。
- 主な質疑応答については以下のとおり。

	委員からの質問	法人の回答
1	<p>固定資産の機械及び装置の簿価が前年度と同額であるが、医療機器等の設備投資はしていないのか。</p>	<p>医療機器は「工具・器具及び備品」類に計上されている。</p>
2	<p>予算額に比べて決算額が減少している理由は何か。</p>	<p>予算と決算の差異は、医療機器等の入札による減等によるものが主な要因である。</p>